

オールZ部

乙部町学習・生活習慣向上プロジェクトだより

乙部町学習・生活プロジェクト
保護者用研修だより
発行責任者 塩崎 弘明
(乙部町立乙部中学校長)
編集委員長 中村 彰
(乙部町教育委員会スクールアドバイザー)
平成 26 年 8 月 日発行

持たせるなら親は覚悟を持って！

～子どもたちが携帯機器に振り回される毎日にしないために～

昨今の調査によると都市部の中3のスマホ所持率が9割を超えているという報告があります。本町では、所持率はそれほど多くないものの、家でネット環境にいる中学生が8割という結果があります。DSやWii、PSPでネットへつなげている家庭も多いと思います。

なぜ、子どもたちが、SNSに夢中になり、スマホをほしがるのでしょうか。また、現実になんかことが起こりえるのでしょうか。



携帯機器に子どもたちははまるわけ

- ・もともとの開発が中高生の利用を対象としていたと言われ、恋愛、性、ファッションなどに目覚める思春期の子どもたちが、情報収集・発信をし、また、交流できるため。
- ・パーソナルメディアとして、大人のいないところで（大人に知られないで）、交流することができるため。
- ・グループを作って、心許せる友人と、誰にも邪魔されることなく、コミュニケーションを楽しむことができるため。
- ・面と向かって言えないことでも、ネットでは言えることもある。ネットでは現実と違うもう一人の自分になれることもあるため。
- ・時間を気にすることなく、いつでも友だちとつながっている安心感が持てるため。

懸念される子どもたちへの悪影響

- ・昼夜逆転現象 睡眠時間が確実に少なくなる。ベッドに入って、「寝落ち」するまで、LINEなどで、大人がどうしてもいいと思うような会話が延々と続く。
- ・返信が遅いと気まずくなるというので、食事をしていても、勉強をしていても、場合によっては、風呂やトイレに入ってもスマホを手放すことができなくなる。
- ・しだいにネットのつきあいを億劫に感じ、返信が滞ったりすると、グループを外されたり、無視されるなど、ネット内、また学校でもいじめに発展しやすい要素となる。
- ・軽はずみな発言や写真投稿で、取り返しのつかないような事態を迎えることも。ネット上に一度流した文なり写真は回収することは絶対に不可能である。
- ・家庭でのコミュニケーションが減り、家の中が静まりかえる。「ご飯ができたよ。」の一声もスマホ経由などという笑い話にもならない現実もありえる。
- ・バッシングを恐れて自分の考えを主張することがなく、全てが「いいね」で友だちの意見に流される。じっくりと自分で考える機会がなくなる。調査では、特にネット利用の女子は、「自分に自信がない」と答えている。
- ・軽はずみなLINEのIDの交換がもとで、つきまとわれるという事件が本道でも複数発生。他府県から、少女に会いに走ってくる事件も実際にあり。小さな間違いが大きな心の傷に。

子どもたちをネット地獄に落とさないために

- ・総論として、小中学生にスマホは必要ありません。中学校では、所持させないようにお願いしています。
- ・子どもにスマホを持たせる安心感と、スマホを持たせた瞬間からの保護者の心配は、比較になりません。特に、約束をしない、約束があるのに守られていない家庭は、ほぼ、「持たせたことに後悔をしています。」（乙部プロジェクト平成 25 年調査）
- ・スマホを持たせた日から、お子さんの生活スタイルが、変化します。（多くは好ましくない方向に）
- ・それでもお子さんに与えるならば、次のことを心に留めていただければと思います。

1 買い与える前に、親子で話し合っ規則を決めて下さい。

午後9時以降は使わない。勉強中は電源を切る。学校には持たせない。
寝る時は居間で充電する。親がわからないパスワードはかけさせない。など

2 フィルタリングは必ずかけて下さい。

子どもにせがまれてフィルタリングを外しているケースがありますが、子どもを守る命綱としてのフィルタリングです。（命綱がない崖登りだと思って下さい。）
ゲーム機でネットに接続している場合でもフィルタリング機能があります。

3 ルールが守られなかったら、親は取り上げる権利があることを承知させて下さい。

最初が肝心です。なぜ守れなかったかを親子でじっくり話し合い、一度リセットをかけて下さい。

4 乙部町の子どもたちのネットルールを守らせて下さい。

乙部町では、午後9時にはネットをやめるように奨励しています。どんなに遅くても午後11時がデッドラインという約束です（乙部町生徒指導連絡協議会）。子どもたちの家族との会話の時間、家庭学習の時間、睡眠時間を守らせましょう。

ネットに夢中になっているお子さんには

- 1 感情的に無理やり取り上げることは、悪循環で逆効果です。
- 2 町の決まりとして11時をデッドラインとしながら、9時終了を守らせましょう。
- 3 子ども自身も、依存している自分に不安になっていることも多くあります。利用記録をノートに書くなど、少しでも依存を脱却するよう励ましましょう。
- 4 一方的にしかるのではなく、時にはお子さんのはまっているアプリを親も体験するなど共感的に見守り、励まして憩うことも大切にしましょう。
- 5 依存症は病気であり、思春期クリニックの受診なども考えられます。

乙部町学習・生活習慣向上プロジェクトは、子どもたちの健全育成のため、これからも、情報機器の危険から子どもたちを守る啓発活動を進めて参ります。乙部町の子どもたち全員が、今大切である学習にきちんと取り組み、望ましい生活習慣を身につけられるよう、学校・PTAが連携しながら、情報提供や事業の推進をして参ります。各家庭においても、お子さんへの声かけはもちろん「オール乙部」を合い言葉にみんなで子どもたちを育てていきましょう。